

家庭菜園相談室

今月のテーマ

ウリ科野菜を作ろう

5月になるとファーマーズマーケットでは各種野菜苗が販売されます。自宅では種からうまく育苗や接ぎ木できないものでも苗からであれば容易に栽培することができます。今回は、雑草抑えにもなるスイカとカボチャの栽培方法についてご紹介します。

図1 作型目安



スイカ(ウリ科)

栽培適性: pHは、5.0~7.0。土壤の乾燥には強いが、過湿に弱い。排水性の良い土壤を好み、過湿下ではつるぼけしやすい。

連輪作: 3年の輪作が良い。接ぎ木苗であれば連作が可能。

栽植密度: 畝幅300 \times 、株間80 \times 、畝高10 \times (水はけが悪い場合は20 \times)

畑の準備: 植えつけの2週間前に苦土石灰100 g/m^2 と完熟たい肥1 kg/m^2 を、植えつけの1週間前に化成肥料80 g/m^2 を施す。早い定植は黒マルチをしておくが良い。

植えつけ: 本葉3枚程度が定植適期であり、苗を購入する場合は病害虫の被害の無いものを選び、割高ではあるが接ぎ木苗を購入した方がよい。定植後はホットキャップで保温し、霜害の恐れがなくなったら除去する。

仕立て: 本葉5~6枚で摘芯し、揃いの良い子づるを4本残す。子づるが伸び出したら敷きわらをして病害や果実の汚れを防ぐ。子づるは18節前後で雌花をつけるが子づる1本に対して大玉種は1果、小玉種は2果までとし、残りは摘果する(図2)。

受粉: 開花した午前中に雄花の花粉を雌花の柱頭に軽くこすりつける。受粉日のラベルを受粉した花につけておくこと収穫の目安となる。

追肥: 子づるが50 \times ぐらいになったときと果実が卵大になった頃の2回、それぞれ追肥(化成肥料30 g/m^2)する。

収穫: 開花後30日ほどしたら果実の日陰部分と日なた部分をひっくり返す。大玉の収穫は開花してから50日前後、小玉は40日前後で収穫となる。

カボチャ(ウリ科)

栽培適性: pHは、5.5~7.0。排水性の良い土壤を好むが、乾燥にも耐えやせ地でも良く生育する。

連輪作: 連作障害はほぼない。

栽植密度: 畝幅300 \times 、株間80 \times 、畝高10 \times (水はけが悪い場合は20 \times)

畑の準備: 植えつけの2週間前に苦土石灰100 g/m^2 と完熟たい肥1 kg/m^2 を、植えつけの1週間前に化成肥料60 g/m^2 を施す。早い定植は黒マルチをしておくが良い。

植えつけ: スイカと同様に定植し、ホットキャップも同様とする。

仕立て: 西洋種は、親づるを摘芯せずに、親づると子づるであわせて2~3本を伸ばす。つるが伸び出したら敷きわらをして病害や果実の汚れを防ぐ。親づるの10~17節目と子づるの5~6節目に雌花がつくが、つる1本に対して1果までとし、残りは摘果する(図3)。

受粉: スイカと同様に受粉する。

追肥: 着果した果実がこぶし大になった頃追肥(化成肥料30 g/m^2)する。

収穫: 西洋カボチャは、開花してから45日前後で果梗がひび割れ、コルク化した頃が収穫適期となる。西洋カボチャは、収穫後涼しい場所で1週間ほど乾燥させると日持ちが良くなる。

図2 スイカの仕立て方(模式図)

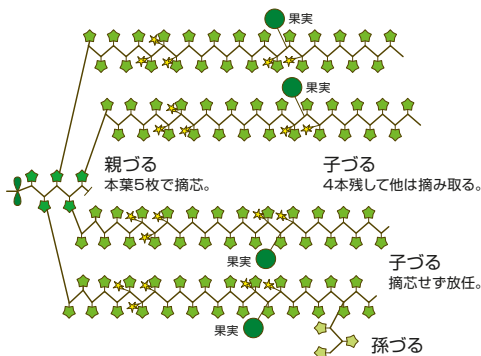
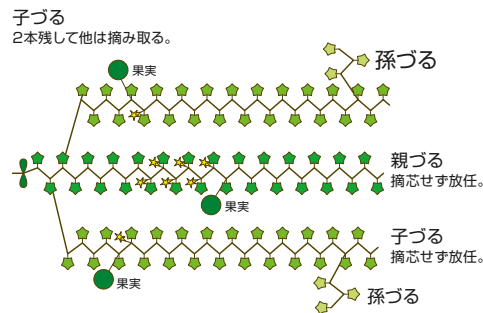


図3 カボチャの仕立て方(模式図)



家庭菜園に関する相談は、TAC(タック)、支店営農経済担当者までご連絡ください。